

第5学年 道徳学習指導案

指導者

1. 日時 ○月○日
2. 学年組 5年○組
3. 主題名 言葉に責任をもとう 内容項目 2－(2) [思いやり・親切]
4. 教材名 どうつきあう無料通話アプリ 〈メディアのめ (NHK for School)〉
(映像資料)
5. 児童の実態

本学級の児童は男女分け隔てなくかかわり、授業の中で発言も積極的な児童もいる。毎時間授業の振り返りを書く中で、自分の次の学習の課題を立てられる児童もいて、学習に対して意欲的な場面も見られる。

総合的な学習や学活の時間にタブレット PC等を使いインターネットを使用する児童が多く、家庭でも自分用のスマートフォンやタブレット PCをもっている児童もいる。児童の会話の中に LINE や You tube など話題にあがることもしばしば見られる。

事前に行ったアンケートではクラス約四分の一がスマートフォンをもち、約二分の一がケータイをもっていることがわかった。またクラスの約七割が「スマホが欲しい」という結果であった。またインターネットの利用に関しても平日でも約四割以上が一時間以上利用し、休日では約七割が一時間以上インターネットを利用することがわかった。さらに、スマホやケータイをメールやアプリなど、コミュニケーションのツールとして利用している児童もいることがわかった。この結果からインターネットやケータイ・スマートフォンに興味関心が高いことがわかった。

6. 資料の特徴 (教材について)

インターネットやスマートフォンの普及で、実際に対面しなくてもメールなどでいつでもコミュニケーションをとることができるようになってきた。複数の友だちに一斉にメッセージを送ることもでき、その便利さを感じ、利用する児童もいる。しかし、その便利さの反面、トラブルになることも少なくない。

本資料では、友だち同士で無料通話アプリを使う中で誤解が生まれ、無料通話アプリや日常生活で仲間外れの原因になってしまう内容構成になっている。そこで本授業では無料通話アプリの仕組みや特性を知り、対面ではないコミュニケーションの便利さや難しさについて考えさせたい。

7. 指導について

本時では、まず前時までに行ったアンケートからインターネットやスマートフォンの利用状況について提示し、その利便性について話し合う。

その中でも LINE などの無料通話アプリについて焦点を当て、映像資料を例にしてトラブルにならないためにどのようなことに気をつけなければいけないかということを考えていく。無料通話アプリの便利な部分や仕組みも考えつつ、このような無料通話アプリを避けて通るのでは無く、トラブルを回避しながら利用する方法を考えられるように授業を展開していきたい。また、LINE などの電子上で

のトラブルが実際の生活でも起こりうることから、普段から相手に伝える言葉についても思いやりがもてるように考えさせたい。

8. ねらい

- ・無料通話アプリの特徴を捉えて、無料通話アプリの利用の仕方を考える。
- ・自分の言葉に対する責任をもち、他人のことを考えた言動ができる態度を育てる。

9. 学習展開

	学習活動	指導上の留意点
導入	1. 前時までにとったアンケート結果を見せる。 ・携帯電話をもっている人が意外と多い ・みんなインターネットを使っている 2. 携帯電話でできることを挙げる ・メール、LINE、YouTube	・前時までのとったアンケートの結果を見ることで自分たちの生活と携帯電話が関わっていることを感じさせる。 ・連絡以外にもアプリなど、多様な使い方があることをおさえる
展開	3. インターネットの中でもLINEなどの無料通話アプリについて本時であつたていくことを確認し、『メディアのめ「どうつきあう無料アプリ」』を視聴する <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> どうつきあう 無料通話アプリ </div> 4. 番組の中の凜さんに起きた事件についてどう思ったか考える ・よくなくないという言葉は分かりにくいことばだな ・？マークをつけたらよかったかな ・文字だけでは伝わりにくい ・手紙でも同じではないかな 5. みんなはこれからLINEなどの無料アプリをどのように利用していくか考える（ワークシートに書き込む） ・面白そうだし、すぐにでも使ってみたい ・文字だけだと顔が見えないし、伝わりにくいから使いたくない。 ・送信したら取り消しができないのがこわいな。 ・誤解が生まれそうになったら必ず会って話	・スマートフォンや無料通話アプリなど使ったことがない児童もいるので、板書等で仕組みがわかるようにしておく。 ・顔が見えないコミュニケーションは難しく、時にはスタンプ（絵や図）などからも誤解がうまれることもある。 ・子どもの意識調査をする（LINEをしてみたいか、している場合はやめられないかなど） ・本時のねらいにもどり、使い方とは相手を思いやって使うことの必要性（モラル）であることについて考えていくと確認する。 ・これから携帯電話をさけて生活することは難しいので、どのように使うとトラブルを回避できるかを考えさせる。

	<p>をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔が見えないからこそ、慎重に言葉を選んで使う。 ・既読されなくても怒ったりしない。 ・困ったときは相談する 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの中に使う便利さとトラブルを避けるために使わないという両方の価値を持ち、葛藤するように問いかけていく。
終末	<p>6. 今日の学習からこれからの生活でどのようなことに気をつけていくべきか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交換ノートなんかでも人の悪口を書いてはいけない ・手紙の切れ端に人の悪口を書いたことがあるからこれからはやらないように気をつけなければいけないな。 ・友だちと人に見せられない悪口とかを自由帳に書いて、陰でバカにしてしまったことがあるから、もうしないようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業と自分たちの生活のつながりが感じられるように、同じような体験をしたことがあるか問いかける。 ・自分の発したり、書いたりした言葉によって人が傷つくことがあることを理解し、自分たちの発言に責任をもてるように促す。 ・相手への思いやりをもった言葉かけが大切であることをおさえる。